



東風

横浜市立綱島東小学校

【支える、支えられる】

副校長 杉本 敬之

秋が深まってきました。子どもたちは運動会に向けて、それぞれが努力する姿が見られています。当日が楽しみです。

先日4年生が資源循環局都筑工場見学に行きました。資源循環局は、ごみの回収や処理だけでなく、資源を作り出すための役割があります。その中の都筑工場は、各家庭からでた廃棄物を処理したり電気を作ったりする工場です。数年前、資源循環局で働く方から教えていただいた話を紹介します。

横浜市のある地域では、ごみの集積場所の数が増え続けています。なんと5年間で集積場所が約800箇所増えたそうです。ごみの集積場所が増え続けているのですが、時間内にごみが収集されているそうです。それは、収集する方々の工夫と市民の協力によるものなのです。ではどのようにして収集や協力をしているのでしょうか。

例えば時間によって人がたくさん集まって収集しにくい場所(店がたくさんある、駅から近い場所など)は、収集するルートを変更して、人が少ない時間にごみを収集するようにしています。人口増加によりごみの量が増える見通しがある場所(大きなマンションなど住む人が多く増える場所)は、あらかじめ多くのごみを集められる収集車に変更しています。

さらに、そもそものごみの量を減らせるよう、ごみの分別シールを積極的にはって知らせるなどの工夫をしているのです。

また、ごみを出す市民もそれに応じて協力をしています。ごみの分別シールに気づき、分別に対する意識を高め、分別をしっかりと行うようになっているそうです。

今回のごみ処理の話のように、私たちは様々なところで誰かを支え、誰かが支えられているのではないのでしょうか。「学校」という社会も同様だと思いま

学校とは、社会への準備段階であると同時に、学校そのものが、子供たちや教職員、保護者、地域の人々などから構成される一つの社会でもある。子供たちは、学校も含めた社会の中で、生まれ育った環境に関わらず、また、障害の有無に関わらず、様々な人と関わりながら学び、その学びを通じて、自分の存在が認められることや、自分の活動によって何かを変えたり、社会をよりよくしたりできることなどの実感を持つことができる。

(文部科学省ホームページより引用)

子ども・教職員・保護者・地域の方々が、見えるところ、見えないところで支え、支えられることによって、子どもたちのよりよい成長へつなげることができるはず。これからも本校の教育活動にご支援・ご協力をお願いします。※先日、家庭科のミシンサポートボランティアを延べ47人の方にご協力いただきました。支えていただき、本当にありがとうございました。

資源循環局都筑工場見学の様子

